

週報 第3336回

会長 杉本 憲一 副会長 中 透
幹事 細川 嘉則 SAA 川崎 久典

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日12:30~13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



今週の例会 (2026年5月15日) 第3336回

■ プログラム

卓話担当 藪野 信 会員
「もう一度女性天皇と女系天皇」

■ 次週のプログラム

5月22日 : 70周年記念式典に振替休会

■ 今後の予定

・5月24日 : 70周年記念式典

■ 祝 誕生日

なし

■ 今月のロータリーソング

我等の生業

今月の歌

茶つみ

夏も近づく 八十八夜
野にも山にも 若葉が茂る
あれに見えるは 茶つみじゃないか
あかねだすきに すげの笠

■ 先週の例会

会長の時間



杉本 憲一 会長

泉大津市の歴史

泉大津の通史をじっくりたどっていくと、海と交通を軸に姿を変えてきた様子がよく見えてきます。

古代~中世の泉大津

泉大津一帯は、奈良時代には和泉国の国府が置かれた「府中」の外港として機能していました。大阪湾に面し、河川を通じて内陸ともつながる場所だったため、都と地方を結ぶ重要な港だったと考えられます。

古代から中世にかけては、瀬戸内海航路と結びついた海上交通の拠点として、人や物資が集まり、周辺に集落や社寺が形成されました。泉穴師神社など

古社は、この頃から地域の信仰と港の安全を支える存在でした。

近世 江戸時代の港町

江戸時代になると、大阪は「天下の台所」として発展し、その周辺港も活発になります。泉大津周辺も、大阪湾沿岸を結ぶ舟運と陸上交通の結節点として位置づけられ、和泉国内の年貢米や物産が集まる中継港の役割を担いました。

この時期、街道沿いには問屋や旅籠、海沿いには船宿や倉庫が並び、小規模ながらも港町としての町場が形成されていきます。また、和泉木綿の集散地であることから真田紐をはじめとした繊維産業が興りました。

近代 毛布産業の発展

明治以降、全国的に鉄道や近代港湾が整備されるなかで、泉大津では繊維工業、とくに毛布産業が急速に伸びました。明治19年ごろから毛布生産が始まり、明治20年には泉大津で日本初の国産毛布が作られたとされています。良質な水が得られ、大阪湾の港や鉄道に近いという条件が、原料の搬入と製品の出荷に有利だったためです。

こうして紡績、織布、染色、仕上げまで一連の工程を担う事業所が集まり、「毛布のまち」として全国に知られる産地が形成されました

近代～現代 市制施行と都市化

明治22年の町村制で周辺の村が再編され、まず「大津村」などが誕生し、その後大正期に大津町となります。昭和期に入り、周辺村との合併を経て、昭和17年4月1日に市制施行し「泉大津市」となりました。和泉国の「泉」と古くからの地名「大津」を合わせた名称です。

戦後は、大阪湾岸の埋め立てで工業地帯や倉庫群が整備され、港湾機能とあわせて物流・工業都市としての性格を強めました。一方で、1903年難波～和歌山間で開通した南海電鉄（泉大津駅の開設は1897年）の沿線開発が進み、大阪都心への通勤圏として住宅地化も進行します。

現代の泉大津

現在の泉大津は、伝統的な毛布・繊維産業は中国製品を中心に日本の国内市場への席卷から生産販売数ともに大きく減少しましたが、新たな製品の開

発、新たな販売ルートの開拓をしながら新素材や新しいライフスタイル商品への展開を進めています。同時に、泉北港湾や1993年開通の阪神高速4号湾岸線を活かした物流機能、翌年1994年の関西国際空港の開港に合わせた泉大津駅東側の市街地の再整備、歴史資源を生かしたまち歩きなど、暮らしやすさと観光性を両立させる取り組みも見られます。

古代の外港から出発し、江戸の港町、近代の毛布産地、そして現代の住宅・物流都市へと、海と交通を軸に姿を変えてきたのが泉大津の大きな流れといえます。

泉大津が住んで良かった、これからも住み続けようと思ってもらえる街にしていくためには、私のような70歳前後ではなく、40～50歳くらいの青年会議所、商工会議所青年部、さらに、小中学のPTA組織、祭り関係者などが行政含めて、我が泉大津市を住みやすい街にしていくにはと、議論していくのが今後必要だと思います。

面積	14.33km ²
総人口	72,299人 (推計人口、2026年3月1日)
人口密度	5,045人/km ²
市の木	クスノキ
市の花	サツキ

幹事報告

細川 嘉則 幹事

- 本日例会終了後、くすのきの間で理事役員会を開催しますので、理事役員・関連の委員長はご出席よろしくお願い致します。
- 5月24日(日)に開催されます浜街道まつりの案内を、皆さんのメールボックスに入れさせていただきました。当日、70周年記念式典開催の日ではありますが、浜街道まつりの方は、午前10時より開催とのことです。

委員会報告

- 市役所の向かいにある東雲公園に、ピククルボールコートが完成しております。5月11日(月)13時半～14時まで30分間、ピククルコートの贈呈式をさせていただきます。皆さん、贈呈式にご参加よろしくお願い致します。(小野寺 巧 70周年実行委員)
- 記念誌に記載します「会員の横顔」ですが、なるべく早くお願いします。
(道正田 均 70周年実行委員)
- 5月24日(日)70周年記念式典・祝賀会に参加される方、アレルギーの有無の確認を事務局よりFAX入れさせていただきたいと思っておりますので、返信よろしくお願い致します。
(川崎 久典 70周年実行委員)
- ロータリーの友5月号の読みどころの紹介。
(森田 真一郎 会報・IT委員長)
- 来週5月14日(木)次年度の理事役員会を、18時から7階の小津で開催予定しております。関係者の方はよろしくお願い致します。
(山本 博章 次年度幹事)

■ ビジター

なし

■ 出席報告

会員数40名 出席免除 0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
5/ 8	33名	7名	—	82.50%
4/17	34名	6名	3名	92.50%

■ メークアップ

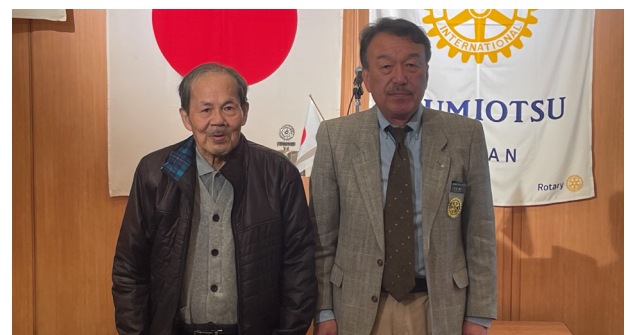
- 榎本(4/21 ワールド大阪ロータリーEクラブ)
- 森口(4/24 70周年実行委員会)
- 小野寺(4/5 ウォーキング・日本酒・グルメ同好会)

■ ニコニコ箱

- ・本日 川端エレクト、クラブフォーラムよろしくお願い致します(杉本)
- ・川端会長エレクト、本日の卓話よろしくお願い致します(細川)
- ・川端会長エレクト、本日の卓話よろしくお願い致します。金剛山登頂400回達成しました(川崎)
- ・嬉しい事がありました。早退のお詫び(櫻井)

ニコニコ箱合計	11,000円
累計	625,500円

■ お誕生日



八木 昌彦 会員(9日)

先週のプログラム

クラブフォーラム



川端 徹 会長エレクト

本日のクラブフォーラムは、2026～2027年度 会長エレクトとして、次年度に向けた地区方針、RI会長メッセージ、そして泉大津ロータリークラブとしての方向性について、皆様と共有させていただきます。

まず冒頭に、一つご報告をさせていただきます。

先日の、泉大津市医師会役員選挙で医師会長を拝命させていただくことができました。クラウドファンディングの成功(112%、3,370,000円の寄付)、地域の2,860名の温かい署名をいただきながら、看護学校閉校に至っていた、閉校派の圧力を退けることが可能となり、存続へ段階的に戻して行きます!当クラブ会員の多くの方々からのご支援や署名をいただき改めまして、心より感謝申し上げます。

私は今回の経験を通じて、

「人の想いは、時間を超えて地域を動かす力になる」

ということを深く実感しました。実は選挙活動中、18年前に亡くなった父親(元当ロータリー会員)から背中を押され応援してくれているような、不思議な体験もありました。

それは、選挙活動で対面で各クリニックに直接訪問していた時です。

某医師会の先輩先生から、「私が医師会に入会した当初は、歓迎的な入会ではなく、多くの医師会の先生方に厳しくされましたが、

先生のお父様だけが、同じ学校の卒業生なのでと、とても優しく接していただきました。この恩は決して忘れません。だから、今回の会長選挙は先生を応援します。」と言っていただきました。この選挙の当日は実は父の本命日、4月28日だったのです。こういった父とのエピソードを数名の先輩先生から教えていただきました。

こんな、「持続可能なインパクト」があることに感銘い

たしました。

さて、今年度から、ロータリーの学びの姿勢にも変化が起きています。

3月15日に会長エレクトラーニングセミナー(PELS)に参加いたしました。これまでの「President-elect Training Seminar」(PETS)とっていましたが、今回、「President-elect Learning Seminar」(PELS)へ名称変更がありました。“Training”ではなく、“Learning”。訓練を受けるイメージのTrainingより自ら学び、対話しながら理解を深めるLearningを重視するという方向転換を、正式名称にもはっきり表すための改称です。

これは国際ロータリー側の意図であり、ロータリーの用語や公式行事名を現代的でわかりやすい表現に更新する、トレーニング一辺倒ではなく、継続的な学びやリーダーシップ開発を重視する流れにそる意図があります。また、クラブリーダーシップ・ラーニングセミナー(CLLS)も同様に名称が変更されています。4月12日、6名のロータリーメンバーで参加いたしました。

この流れは、まさに次年度RI会長エレクト、オラインカ・ハキーム・ババロラ氏のメッセージにも通じています。

2026～2027年度 RIテーマは、「持続可能なインパクトを生み出そう」

です。ババロラ氏は、こう語っています。

「世界を変える前に、まず私たち自身がどう変わるかを認識すべきである。すべては内なる変化から始まる。」私は、この言葉に非常に感銘を受けました。ロータリーの奉仕というのは、単に事業を行うことではなく、まず自分自身が変わること。そこからクラブが変わり、地域が変わり、世界へ波及していく。まさに、「種をまき、芽が出て、やがて大きな木になる」、そのような継続的な活動が求められているのだと思います。

クラブの新しい入会者に対してよりオープンに歓迎するよう呼びかけたババロラ氏は、ローターアクト時代にロータリークラブに入りたいと思ったものの、クラブ会長から冷たい対応を受けた自身の経験について語りました。「彼(クラブ会長)はこう言いました。“何という厚かましきだ!ただ入会できるわけがないだろう。招待が必要だ”、と」とババロラ氏は振り返ります。「そこであきらめることもできましたが、私はこう言い返しま

した。“子どもが親の家に入るのに招待が必要だとは知りませんでした”当時と比べれば良くなったものの、まだ十分ではないとババロラ氏。一部のクラブは世界をオープンに受け入れるどころか、閉ざされたままであり、若い人たちが尊重されず、考えや背景が異なる人が歓迎されないこともあると述べ、人びとをよりよく受け入れるにはどうしたらよいかを考えるよう促しました。「例会や奉仕プロジェクトでの皆さんの態度ひとつで、誰かのロータリーのストーリーが始まるかもしれないし、終わるかもしれないのです」

2026-27年度RI会長:会長メッセージ 「持続可能なインパクトを生み出そう」



会長メッセージ動画
こちらからご視聴頂けます



↓こちらのURLからもご視聴可能です
<https://brandcenter.rotary.org/ja-jp/assets/26-1652182295lang-ja>



会長メッセージ
要点解説動画5分

<https://youtu.be/bpSdVXNK4QM>

インパクトある活動と「世界をオープンに受け入れる」ことを国際ロータリー会長エレクトが強調

次年度第2640地区ガバナーには、河内長野高野街道ロータリークラブの岡本弥生氏が就任予定です。まだ46歳という若いガバナーです。さらに同クラブは会員数17名の小規模クラブであっても、ガバナー輩出ができることを強調されています。

岡本ガバナーエレクトは、

「地区が主役になることはありません。主役は常にクラブであり、会員一人ひとりです。」と語っておられます。私はこの考え方に、大変共感しています。地区は上から指示する存在ではなく、クラブが“やってみたい”と思った時に、背中を押してくれる存在。そして、「新しい風を吹き込み、会員のヤル気・元気・活気を呼び起こしたい」とも話されています。

では、私たち泉大津ロータリークラブとして、どのような「持続可能なインパクト」を生み出せるでしょうか。本日は、その具体例を皆様と考えたいと思います。

まず、一つ目。70周年記念事業。中学生映画鑑賞会、『心の傷を癒すということ』。この事業は本当に素晴らしかったと思います。

未来を担う中学生たちが、命、震災、人との支え合いについて考える機会となり、震災で受けた強い心の傷にどのように接すればよいのかと、我々と一緒に学ぶ機会となりました。単発のイベントではなく、“心に残る経験”として、将来地域社会を支える若者へ繋がっていく。これもまた、持続可能なインパクトだと思います。二つ目。子ども食堂支援での金芽米の提供など、継

続した支援を行っています。特に、ひとり親家庭や子ども達へ、「ロータリークラブって何をしている団体なんだろう」、そう知っていただくことは、公共イメージ向上にもつながります。

三つ目。ローターアクト、インターアクトの再始動。現在、若い世代との接点づくりは、ロータリー全体の大きな課題です。しかし私は、若い人たちは決して奉仕に関心がないのではなく、「入り口」が見えにくいだけだと思っています。ロータリーが門戸を開き、共に活動する場をつくること。それが未来への投資になると感じています。

そして、私が個人的にも大きな可能性を感じているのが、『FMいずみおおつ』との連携です。地域のコミュニティラジオを活用して、

- ① 公共イメージをオンエアで広げる
- ② 奉仕活動の推進や紹介
- ③ 会員増強へ啓発
- ④ 青少年地域活動への支援や番組で紹介
- ⑤ その他

ここで、社会奉仕、青少年ライラ、会員増強、会報・ITが関わりあい、発信できれば、泉大津ロータリークラブの活動を、地域へ“見える化”できます。さらに、当クラブの会員が持ち回り出演し、また第2640地区の他のロータリー会員のの方にゲスト出演いただくことで、クラブ同士の交流も生まれます。

もちろん、予算や運営の課題はあります。しかし、ニコニコ支援や当会員の企業協賛を含めた、地域ぐるみで支える形ができれば、新しい公共イメージ戦略になる可能性があります。

私は、だんじり認知症サポーター活動を通じて、「だんじり文化で地域のために」、だんじり文化を次世代、次々世代へ伝えると同時に認知症サポーター(オレンジリング)の活動の意志を伝えることも、持続可能なインパクトを生み出すのではないかと思います。地域文化と、地域への思いやりは、必ず次世代へ受け継ぐことができる。そして、その積み重ねが、やがて地域の未来を支える大きな力になります。

「持続可能なインパクトを生み出そう」

このテーマを、単なるスローガンではなく、泉大津ロータリークラブらしい形で実践していきたいと思っています。会員の皆様と共に、楽しみながら、活気ある一年をつくっていきたく思いますので、どうぞよろしくお願いたします。



(追記) 今回の会長エレクトのクラブフォーラムの案内版(?)ポスターを、情報やエッセンスを入力して生成AI(ChatGPT)に作成してもらいました。

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を实践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか